

賛育会の沿革と「赤ちゃんの命を守るプロジェクト」の開始について

賛育会は現在、東京都、長野県、静岡県で医療・高齢者福祉・保育を行っています。1918年に東京大学 YMCA(キリスト教青年会)の有志が、東京下町の貧しく、弱い立場にあった母子の保健・保護のために無料の医療相談を始めました。この慈善事業が賛育会の始まりです。日本初の一般庶民向け産院や訪問看護を始めながら、慈善事業から財団法人、社会福祉法人へと形を変えて107年間、地域の皆さんとともに生きています。錦糸町にある賛育会病院でこれまでに産まれた赤ちゃんは延 34 万人になります。戦時中、患者に疎開をお願いしていた長野と、戦争で焼失した孤児院の移転先を探す中で紹介された静岡でも医療を始めました。また、1964年に東京都町田市に特別養護老人ホームを開設し、その後、長野と静岡でも高齢者福祉事業を行うようになりました。現在では東京都江東区で保育園も開設し、賛育会の理念であるキリスト教の「隣人愛」を実践しています。

創立から百年過ぎてもなお、行き場のない母子がいて、赤ちゃんがコインロッカーや公園、海岸に置き去りにされることが繰り返される現実を踏まえると、母子の保健・保護の充実の必要性は現在も増していると考えています。コロナ禍で計画が進まない時もありましたが、賛育会は約5年の歳月をかけて、各所の見学、検討を重ね、コロナ禍後からは行政にも相談をさせていただきながら、本日、錦糸町の賛育会病院で「内密出産」の受け入れと匿名による赤ちゃんの預け入れを「ベビーバスケット」として開始することとしましたので、皆様にお知らせいたします。

賛育会病院では現在も、複雑な事情や背景をお持ちの妊婦さんや外国籍の方を含めた一定数の飛び込み出産、特定妊婦を受入れています。内密出産とベビーバスケットは、これまでの病院の働きの延長上にあるものとして開始しますが、本会組織全体で、行政や関係機関と連携して母子の命に寄り添うものです。様々な課題やリスクを伴うことではありますが、賛育会は将来、このような取り組みが必要のない社会になることを願って、赤ちゃんのいのちを守る最後の砦として、内密出産とベビーバスケットを始めます。

最後に、法制度のない中でも賛育会の相談に乗ってくださり、私たちと一緒に母子の命・保護を最優先に考えてくださる行政の皆様、関係機関の皆様がいることに感謝いたします。弱い立場にある母子の保健・保護のために、内密出産とベビーバスケットへのご理解、ご協力をどうぞ宜しくお願いいたします。

2025年3月31日
社会福祉法人 賛育会